

私は陳情第7号加齢性難聴者の補聴器購入に対する助成制度の創設を求める陳情に意見を付して賛成といたします。

実は私は前回の加齢性難聴者の補聴器購入に対する助成制度の創設を求める陳情が出された時には、反対の討論を行いました。その理由は、その補聴器を付ければ、即刻聞こえが改善され他者とのコミュニケーションが図れるというものではなく、補装具の調整は、なかなか難しく、本人が納得できる聞こえにたどり着くためには時間も根気も家族のサポートも必要となることから、助成する対象としての費用対効果を懸念し、助成制度を創設する課題として、高齢者福祉に寄与できるのかの判断が難しいと考えたからです。

今回は2度目の陳情であり、改めて熟慮しました。難聴による刺激の低下や情報量の少なさからくる社会的な認知症との関連についての指摘は承知しており、何らかの対策は必要だと考えました。今回の陳情に際しては、他市の動向やその効果等の検証を含め進めていただくことをお願いするとともに、加齢による難聴者とのコミュニケーションの取り方などの工夫も含め高齢者福祉に携わる知見も参考にさせていただきたいと考え、この助成制度の創設をお願いするものでございます。以上、意見を付して賛成といたします。